都道府県リーダー研修の
目的と関係者の役割

国立長寿医療研究センター
企画戦略室長　深田修

本日お話すること

１．在宅医療連携拠点事業の目的

２．在宅医療を進めていく上での課題

３．在宅医療連携拠点の活動のポイント

４．今回のリーダー研修について

・都道府県リーダー研修の内容
・各地の研修成果に基づく効果的な研修プログラム

５．都道府県、都道府県医師会にお願いしたい役割

1. 在宅医療連携拠点事業の目的

- 高齢者の増加に伴い、病気を持ちつつも可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごせるよう、在宅医療の普及・推進が求められている

- 地域に在宅医療の連携拠点を設け、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築

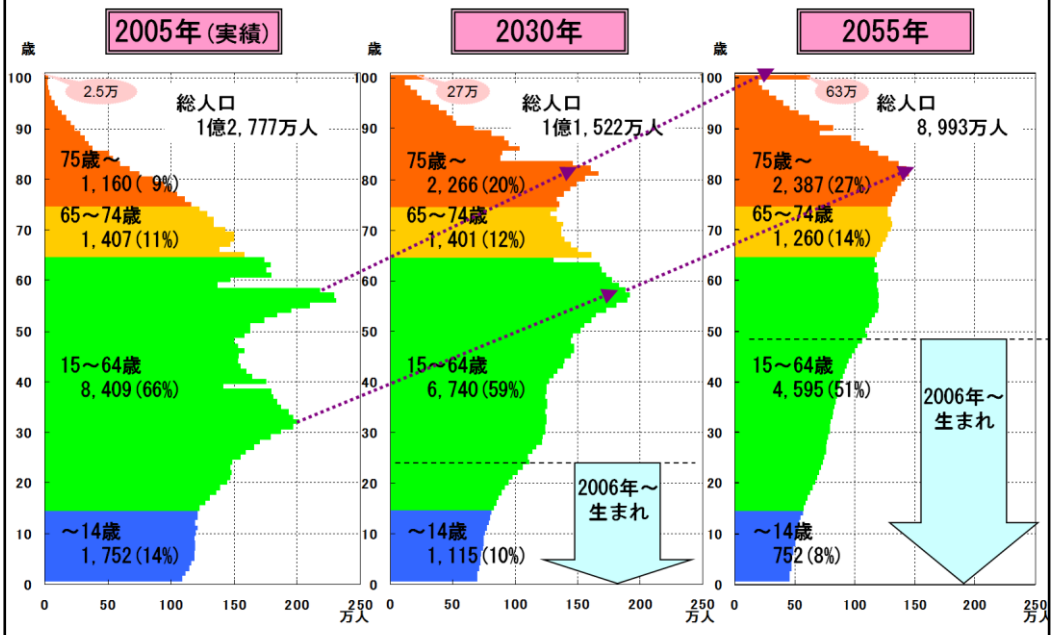
↓

医療・介護が連携した
地域における
包括的・継続的な在宅医療・介護の供給を目指す

在宅医療連携拠点事業の目的は、医療・介護が連携した、地域における包括的・継続的な在宅医療・介護の供給を目指すことである。

その背景には、高齢者の増加に伴い、病気を持ちつつも可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごせるよう、在宅医療の普及・推進が求められていることがある。それを受け、地域に在宅医療の連携拠点を設け、多職種協働による、在宅医療の支援体制を構築することが急務となったのである。

人口ピラミッドの変化（2005，2030，2055） －平成18年中位推計－



注：2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。2030・2055年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

2. 在宅医療を進めていく上での課題

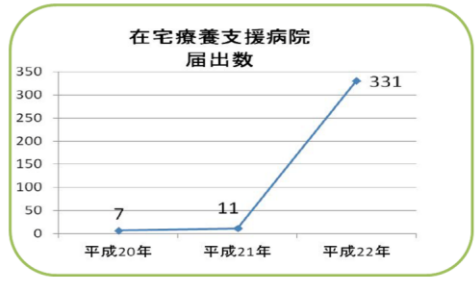
以下の課題への対応と在宅医療の普及・推進のための拠点として在宅医療連携拠点が設けられた

①かかりつけ医の積極的な在宅医療への参加

【課題】

在宅医療を提供する医療機関は増えているが、「往診してくれる医師がいない」など有効に機能していないのではないか

→地域医療を担うかかりつけ医が取り組めるように促す



2012年7月11日在宅医療連携拠点事業説明会配布資料より

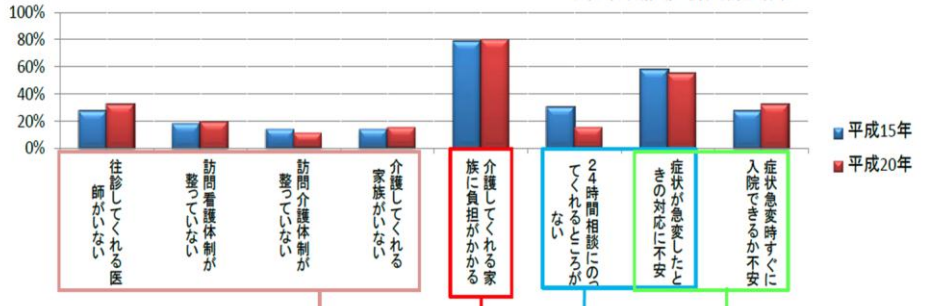
在宅医療を進めていく上での課題は、大きく四点挙げられる。今から述べる課題への対応と在宅医療の普及、推進のための拠点として、在宅医療連携拠点が設けられた。

まず第一点目は、 かかりつけ医の積極的な在宅医療への参加である。

→地域医療を担う、かかりつけ医が取り組めるよう促す

■在宅療養移行や継続の阻害要因

出典：終末期医療に関する調査（各年）



■在宅医療推進にあたっての課題

在宅医療・介護サービス供給量の拡充
医療/介護の連携によるサービスの質の向上及び効率化

家族支援

24時間在宅医療提供体制の構築

在宅療養者の後方ベッドの確保・整備

2012年7月11日在宅医療連携拠点事業説明会配布資料

2. 在宅医療を進めていく上での課題

②24時間対応の在宅医療提供体制の支援体制の整備

【課題】

緊急時等の対応など支える仕組みが不十分で、医師に対する負担が重い

→1:緊急時のバックアップ病床の確保

2:かかりつけ医不在時の医療機関連携システム

次に第二点目は、24時間対応の在宅医療提供体制の支援体制の整備である。

→ 1:緊急時のバックアップ病床の確保

2:かかりつけ医不在時の医療機関連携システム

2. 在宅医療を進めていく上での課題

③医療・看護と介護・福祉の連携

【課題】

在宅での生活を支えていくためには、医療、介護のそれぞれの専門家によるサービス提供が連携を持って提供されていくことが必要

→多職種ケアカンファレンス等の多職種連携システムの確立

第三点目は、医療・看護と介護・福祉の連携である。

→在宅での生活を支えるための多職種連携システム

2. 在宅医療を進めていく上での課題

④住民に対する在宅医療の普及活動

【課題】

在宅医療やそれらを支える訪問看護などの役割や内容、どこまでの医療が在宅で受けることができるか知らない市民が多い

→啓発活動

最後に第四点目は、住民に対する在宅医療の普及活動である。

→在宅医療についての啓発活動

以上の課題への対応と在宅医療の普及・推進のための拠点として、在宅医療連携拠点が設けられたのである。

3. 在宅医療連携拠点の活動のポイント

医師会・市町村を巻き込んだ活動が重要

①市町村単位で、かかりつけ医をはじめとした多職種が参加する研修の実施が効果的

②医師会からの推薦等
→継続的な研修の実施には医師会の関与が必須

③在宅医療を担う医師の負担軽減の仕組みづくりには、医師会の協力が必須

在宅医療連携拠点の活動のポイントを挙げる上で、市町村・医師会を巻き込んだ活動が重要であると言える。活動のポイントは、四点挙げられる。

①市町村単位で、かかりつけ医をはじめとした、多職種が参加する研修の実施が効果的である。そして、研修実施にあたり、多職種参加への協力を得る。

②医師会からの推薦など
→継続的な研修の実施には医師会の関与が必須

③在宅医療を担う医師の負担軽減の仕組みづくりには、医師会の協力が必須

3. 在宅医療連携拠点の活動のポイント

医師会・市町村を巻き込んだ活動が重要

④在宅療養を支えていくためには、多職種との連携が不可欠であり看護・介護等との連携を図るためには、介護保険の保険者である市町村との協力関係が不可欠

→多職種連携の研修会の開催にあたり、市町村から、看護・介護関係者の出席の呼びかけなどの協力をお願いする

④在宅療養を支えていくためには、多職種との連携が不可欠である。そして、看護・介護との連携を図るためには、介護保険の保険者である市町村との協力関係が不可欠である。

・市町村から、看護・介護関係者の出席の呼びかけ
　→行政が指導しモデルを示していくことが重要

4. 今回の都道府県リーダー研修について

2012年7月11日
「在宅医療連携拠点事業説明会」（厚生労働省主催）
説明内容

- **最近の在宅医療の動向**
- **拠点事業のタスク**
- **先駆的な取り組み等**
- **拠点事業を進める上でお願いしたい役割（資料参照）**

都道府県リーダー研修について、2012年7月11日「在宅医療連携拠点事業説明会」では、以下の説明がなされた。

・最近の在宅医療の動向
・拠点事業のタスク
・先駆的な取り組み　など
・拠点事業を進める上でお願いしたい役割
　→都道府県医師会
　→拠点所在の郡市医師会
　→都道府県
　→拠点所在の市町村

今回の都道府県リーダー研修の内容

①地域リーダー研修の内容について、在宅医療推進の担い手である医師に対する動機づけ研修のモデルプログラム提示

・拠点で行われる研修プログラムと内容

【研修手法】

講義、DVD、模擬グループディスカッション

・各々の拠点における拠点事業を進めていく上での課題抽出方法等についてのグループワーク等

②拠点を活かした在宅医療の面展開の方法

・講義、質問紙調査の結果、グループディスカッションを行う

これらを踏まえ、都道府県リーダー研修の内容を説明する。

①在宅医療推進の担い手である医師に対する動機づけ研修のモデルプログラム提示

→【研修手法】講義、DVD、模擬グループディスカッション

→各拠点の抱える、在宅医療を進めていく上での課題の克服についての学習の実施

【学習手法】グループワーク

②拠点を活かした、在宅医療の面展開の方法

→【学習手法】講義、質問紙調査の結果を踏まえた、グループディスカッションの実施

各地の研修の成果を活かす

効果的な研修プログラムの2つの枠組み

①顔の見える関係の構築

・地域の医師をはじめとした多職種連携のグループワーク等の研修を行い、顔の見える関係を構築

②同行訪問

・研修に、実際の在宅医療の現場への同行訪問を組み入れることにより、医師の在宅医療への動機づけと行動変容に大きな効果があることが明らかになってきている

各地の研修の成果を基にした、効果的な研修プログラムの2つの枠組みとして、

①顔の見える関係の構築
　→地域の医師を含めた多職種連携の構築
②同行訪問
　→実際の在宅医療の現場へ
　→医師の在宅医療参入への動機づけと行動変容に大きく関与することが挙げられる。

5. 都道府県、医師会にお願いしたい役割

都道府県の方々に特にお願いしたい役割

【拠点への積極的関与】

①地域リーダー研修を通じて、本日提示した研修プログラムの伝達および実施に当たっての協力

②全市町村、全郡市医師会に対する、地域リーダー研修への参加の働きかけ

③都道府県医師会と連携し、市町村、郡市医師会に対して、よく協議を行い主体的に、または両者の支援内容を明らかにして、両者が全面的な支援を行う拠点設置の働きかけ

都道府県の方々にお願いしたい役割として、拠点への積極的関与がある。具体的には、以下の通りである。

①本日、提示した研修プログラムの実施と拠点の拡充
②全市町村、全郡市医師会に対する、地域リーダー研修への参加の働きかけ
③都道府県医師会と連携した拠点設置の働きかけ

都道府県の方々に特にお願いしたい役割

④市町村への働きかけ

1：各市町村での拠点設置に向けた取り組みを促す

2：介護事業所のまとめ役として、拠点の行う研修会への介護事業者等の参加要請や会場の確保など積極的な関わりを促す

＊尚、厚生労働省「提言型政策仕分け」の提言において、在宅医療と介護を連携させる仕組みとして、「市町村が医療側と介護側の双方を調整することが必要であり、在宅医療において、都道府県との緊密な連携の下に市町村が積極的に取り組むことが必要」とされており、市町村が地域の在宅医療政策の担い手となることが期待されていることに留意して、在宅医療連携拠点への積極的な関与と指導

④市町村への働きかけ

1：各市町村での拠点設置に向けた取り組みの促し

2：拠点の行う研修会への介護事業者等の参加要請や会場の確保など積極的な関わり、介護事業所のまとめ役としての市町村への指導

都道府県医師会にお願いしたい役割

①地域リーダー研修の円滑な運営への支援

②在宅医療連携拠点の行う多職種連携の研修会への積極的な関わり

→拠点が行う研修へ、郡市医師会からの医師の推薦や継続的な参加の働きかけ

→行政と連携した拠点設置への働きかけ

都道府県医師会の方々にお願いしたい役割として、2点挙げられる。
①地域リーダー研修の円滑な運営への支援
②在宅医療連携拠点の行う、多職種連携の研修会への積極的な関わり
→拠点が行う研修へ、推薦して医師を出し、継続的に参加を促す
→行政と連携した拠点設置への働きかけ

10/13.14 都道府県リーダー研修プログラム　国立長寿医療研究センター

時刻	1日目：10月13日（土）	講師等	主旨、構成内容	形式	時間
13:00	開会の辞	国立長寿医療研究センター 大島伸一			10
	挨拶 厚生労働省	厚生労働省 老健局			5
	挨拶 日本医師会	日本医師会 常任理事 鈴木邦彦			5
	都道府県リーダー研修の目的と関係者の役割	国立長寿医療研究センター 老年学研究所 所長 大内 尉義 国立長寿医療研究センター 在宅医療研究室 室長	講師	講義	35
	質疑応答				20
	休憩				15
14:30	在宅医療の本質と理想の在宅医療リーダー像	東京都老人総合研究所 高橋紘士	講師 1. 現状での在宅医療の位置 2. 在宅医療を担う人材に必要なもの 3. 在宅医療のリーダーとは 4. 在宅医療のリーダーを育成するための必要な要素	講義	30
	高齢者のニーズに応える在宅医療	国立長寿医療研究センター 梅田徹	高齢者の特性（変性、老年症候群）やニーズに応える在宅医学とは、多職種協働とは？		20
15:20	生活を支える、在宅ならではの医療の実際	在宅ホスピスケア ネットワークハウス 小澤竹俊	1. 現在と在宅での医療に対する技術や意識の変異 2. 在宅医療と病院 3. 在宅医療においてなされる看護や看取りの可能性		25
	"エンド オブ ライフ ケア"の視点を有する在宅医療の重要性	聖隷クリストファー大学 看護学部 平野金代表	1. 在宅医療におけるエンドオブライフケアの対象、課題に考えるシステム 2. 中国でのエンドオブライフケアの実践にいたった経緯、活動、将来に対する展望		20
	休憩				10
16:20	訪問診療の実際と同行研修の意義DVD視聴）		研修の一つの形態である、同行研修の概要紹介	映像視聴	10
	かかりつけ医と在宅医療の接点	東京大学 高橋紘士&山本和儀教授 辻哲夫	1. かかりつけ医の動態データの必要性と在宅医療の関係 2. かかりつけ医の動態データを在宅研修を行うことで見えたこと変化 3. 他プロジェクトのかかりつけ医研修一次取り組みと成果	講義	30
	H23年度集点事業のレビューと今年度集点の評価指標	国立長寿医療研究センター 老年学研究所 山田陽介 大島伸一	1. 23年度の調査は在宅医療連携に関する質的研究とその研究結果から 集点ガイドの原理 2. 24年度 在宅医療連携拠点のアウトカム評価指標開発からみない		10
	GW1　都道府県における在宅医療推進 （在宅医療連携集点を活かした実証型の方略）	聖隷クリストファー大学 看護学部 平野金代表 国立長寿医療研究センター 在宅医療研究室 山崎 亮	内容、目的を、連携拠点が実践的になるが、都道府県全体へ波及展開することを意識して都道府県ごとに下記内容を検討 1. わが県における在宅医療推進の意義 2. わが県での在宅医療推進のための方略 3. 地域での協働事業の展開に向けて	グループワーク	70
18:30	事務連絡・アンケート記入				

時刻	2日目：10月14日（日）	講師等	主旨、構成内容	形式	時間
9:00	ガイダンス	国立長寿医療研究センター 在宅医療研究室　三浦久幸	2日目研修プログラムの概要、意図の解説		3
	多職種連携協議の今日的意義とグループワークの進め方	聖隷クリストファー大学 看護学部 平野金代表	1. 多職種連携協議の意義、目指とする目的との解説 2. グループワークを効果的に進めるための方法	講義	25
	GW2　地域における課題抽出の方法	聖隷クリストファー大学 看護学部 小澤竹俊 国立長寿医療研究センター 在宅医療研究室 三浦久幸	1. 地域単位に関するさまざまな課題抽出の方法 2. KJ法を用いた課題抽出の方法 3. 全体ディスカッション	グループワーク	60
	課題抽出の方法とその解決策の事例紹介	聖隷クリストファー大学 看護学部 小澤竹俊	1. 在宅療養を支える医療や健康業務の現実と、課題を抽出した課題抽出の方法 2. さまざまな課題抽出の方法とその解決策の事例紹介	講義	30
	休憩				15
11:15	GW3　多職種ケアカンファレンス	聖隷クリストファー大学 看護学部 平野金代表 国立長寿医療研究センター 在宅医療研究室 大島 伸一 三浦久幸	多職種ケアカンファレンス映像（高齢者のカンファレンス、在宅における多職種のカンファレンスを模倣）、それを元に、現状がどの多職種連携に関する検討を行う	グループワーク	60
	二日間通しての振り返り	国立長寿医療研究センター 大島伸一 在宅医療研究室　三浦久幸			20
	修了証書授与	国立長寿医療研究センター 大島伸一			
	閉会の辞	国立長寿医療研究センター 梅田徹			20
13:00	事務連絡：地プロジェクト研修2012年12月1～2日、2013年1月26～27日開催（医学の各地等）・アンケート記入				

（参考資料）
H22.7.11 厚生労働省在宅医療連携拠点事業説明会資料

在宅医療・介護連携において関係者にお願いしたい役割 ～市町村、郡市医師会～

【市町村】

・郡市医師会等関係者と連携し、拠点事業者による在宅医療・介護サービス提供主体の連携の取り組みを支援し、地域全体の取り組みに広げる（多職種連携カンファレンスへの参加の連名での呼びかけ、拠点事業者の依頼に基づく各ステークホルダー間の調整等）
・郡市医師会と連携し、地域の在宅医療に関わる医療機関への働きかけ（24時間体制のバックアップ体制の調整、後方病床を果たす病院への協力依頼等）
・地域包括支援センターの運営に際して、拠点事業者との連携を図る
・地域住民への在宅医療・介護の普及啓発
・多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業地域リーダー研修への参加

【郡市医師会】

・多職種協働による在宅医療の提供やそのための研修への参加、拠点事業への協力について、地域医療を担う医師に呼びかけ
・市町村と連携し、地域の在宅医療に携わる医療機関への働きかけ（24時間体制のバックアップ体制の調整、後方病床を果たす病院への協力依頼等）
・地域の医療関係団体への在宅医療推進の働きかけや調整
・地域ケア会議への医師の参加の呼びかけなど、地域包括支援センターとの連携
・多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業地域リーダー研修への参加

（参考資料）
H22.7.11 厚生労働省在宅医療連携拠点事業説明会資料

在宅医療・介護連携において関係者にお願いしたい役割 ～都道府県、都道府県医師会～

【都道府県】

・市町村、関係団体等の意見を踏まえて、在宅医療に係る医療計画の策定（特に在宅医療に必要な連携を担う拠点をできる限り医療計画に位置づけ）
・関係者への在宅医療推進の都道府県レベルでの働きかけや調整
・多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業都道府県リーダー研修への参加
・関係者と連携し、都道府県内での多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業地域リーダー研修の効果的な開催
・保健所等を通じた市町村への技術支援（医療（・介護）資源の可視化等）

【都道府県医師会】

・郡市医師会に対する在宅医療推進に関する働きかけや支援
・医療関係団体への在宅医療推進の働きかけ
・多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業都道府県リーダー研修への参加
・都道府県内での多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業地域リーダー研修の円滑な運営への支援
・医療計画の策定に際し、都道府県と協力